

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3472500895		
法人名	医療法人社団親心会 小西脳外科内科医院		
事業所名	グループホーム湯舟の里		
所在地 (電話番号)	東広島市高屋町造賀2961 (電 話) 082-430-2210		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成19年6月28日	評価確定日	

【情報提供票より】(19年 5月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8.5

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	30,000+実費円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000	円

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団親心会 小西脳外科内科医院、浅倉歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな環境にある。恵まれた環境を生かし、ホームに閉じこもらない、開放的で、明るい生活が指向されている。
また、しっかりした介護基本理念を持ち、それに基づいた日常ケアが行われている。職員は決して「否定的な言葉」を使わない。また、利用者にとって、大切な時間を、「ライフメイト」として共に生活する姿勢が徹底されている。医療機関併設であること、きめ細かい介護計画、個人記録が整備されていることに加え、職員の異動が少ないなど、利用者にとって安心と安らぎの生活が提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題は市との関わり強化。市の窓口と親密な関係を維持すべく努力が重ねられている。認知症アドバイザー資格の届出も行い、市からの事業委託があれば受託できる体制にある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、施設長や管理者を中心にまとめられている。今後は、一般職員を巻き込み、全員で検討し問題点の掘り起こしが行われるよう期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) これまで3回開催されている。討議内容はホーム側からの説明や報告、それに対する質疑が中心で、ホームのサービス向上に活かせる段階にはいたっていない。今後は、災害時救助支援体制づくりなどホームからの要望なども含め、サービス向上に結びつく実りある会議運営を期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時の話し合いや「ホーム便り」で利用者の生活状況や行事内容を定期的に知らせている。主治医のコメント付診断結果や小遣い帳のコピーも同封している。苦情や意見は、ホーム直接のほか第三者機関を通じても吸収できる体制にある。不満や苦情が発生したら全員で話し合い、すばやく解決するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームとして地域活動には積極的に参加している。地区の清掃、とんど、小学校の運動会、保育園訪問などを定期的に行っている。また、近所の人にはホームの行事に参加してもらうよう案内するなど近隣との交流にも努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住民の一人として地域に溶け込み、地域の一員としての役割を果たす」などホーム独自の理念をつくり、その実現に向けて取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図るため、全員による日々の唱和やケアに迷ったとき基本理念に立ち返るよう指導されている。また、日常のミーティングでもよく話合われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして地域活動などに積極的に参加し交流を深めている。地区内の清掃作業、とんど、小学校の運動会、保育園訪問などが定期的に行われている。また、ご近所の人にはホームのイベントなどに参加してもらうよう案内もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性は理解されている。結果は全体ミーティンで報告され、対策を話し合っている。		今後の自己評価は、管理者ほか全職員を巻き込み、全員で検討、問題点を掘り起こした上でまとめられるよう望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに3回実施されている。会議はホーム側からの状況説明や報告、それに対するメンバーからの質問、意見が中心で、まだホームのサービス向上に活かせる段階にはいたっていない。	○	他の成功例なども参考にし、サービス向上に活かせる運営推進会議づくりへの積極的な取り組みを期待したい

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口と親密な関係を維持すべく努力している。認知症アドバイザー資格の届出も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の話し合いのほか、ホーム便りなどで生活状況や次月の行事予定などを知らせている。また、3ヶ月に1度程度は主治医のコメント付診断結果も送付している。小遣い帳は2ヶ月に1回コピーを送り、面会時、確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にも明記されているように、苦情の申し立てはホームの管理者や職員のほか、東広島市、健康保険連合会へも行えるようになっている。不満、苦情があった場合、全職員で話し合い解決している。		重要事項説明書の12苦情申し立てについて、出来るだけ自由に申し立てが出来るような表現に、部分修正されることを望む。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職による交代は開設以来4名。情報の共有化、申し送りなどきめ細かい情報伝達に努めることで、利用者へのダメージを最小限にとどめている。これまでのところ、利用者の拒絶反応はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員ごとの育成マニュアルにしたがって体系的に行われており、ホーム内勉強会、社外研修にも積極的に参加している。また、受講後の報告ミーティングはかならず行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他地域特定グループホームとの交流を行っている。相互訪問し、職員同士の情報交換、勉強会などを行うことでお互いサービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めるよう、ご家族と相談しながら工夫している。昨年の例では、ショートステイ感覚で入居され、土日は帰宅のパターンを数回繰り返し馴染まれたケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ライフメイトとして接している。利用者に教えてもらう、学ぶ、一緒にやる、先輩としての敬意を忘れない中で、掃除、料理など出来ることは、一緒にやってもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、利用者やご家族の話を聞き、本人の生活歴や希望、意向を聞きだすように努めている。出来るだけ、その意向に沿い、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりについてより良く暮らすためのケアのあり方について、利用者、ご家族、関係する職員で充分話し合い、課題を明らかにし、それぞれのアイデアを加味した介護計画が策定されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとに見直されている。また、身体状況など急激な変化が生じた場合も、関係者で充分話し合い、現実的な見直しが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な外出のほかに、本人やご家族の要望に応じ、墓参りのための里帰り、プライベートな外出、特別な受診など可能な限り柔軟な支援が行われている。場合によってはグループ内隣接するデューサービスの行事にも参加してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による週一回の往診を行い体調変化の把握に努めているが、異常があったり、ご家族の要望があれば、他医院の受診や往診も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに3名見送っている。ご家族や主治医をはじめ関係者と出来るだけ早期から話し合い、方針を共有して臨んでいる。身内の方には泊まっていただくような提案もしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを傷つける言葉使いはせぬよう徹底されている。特に排泄時の誘導、整容の乱れや食べこぼし支援時の言葉がけに注意している。個人情報の管理は厳重に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれのペースを把握し、それぞれのペースで過ごせるよう心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝昼の献立は出来るだけ利用者と一緒に決め、準備、調理、あと片付けなどは、出来る人に手伝ってもらっている。また、食事も職員と一緒に、楽しみながら行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体力のこともあり、週3回としているが、入浴時間や長さは、出来るだけ希望を聞き、入浴を楽しんでもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、調理の手伝い、洗濯物干し、いぬの散歩、畑仕事などそれぞれの得意分野で役割を果たしてもらっている。季節の行事もみんな考えて実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人的な散歩を含め、天気の良い日には出来るだけ外出してもらうようにしている。その他、買い物や地域行事への参加、季節行事(花見、りんご狩り)、喫茶店、小旅行など外出機会が増えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されていない。全職員は施錠は拘束につながることをよく理解し、外出傾向の強い人には特に注意を払い行動をとるように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、利用者を含めた全員による訓練を実施している。	○	最低年2回以上、全員による訓練実施を期待したい。また、運営推進会議などを通じ、災害発生時の地域支援体制、連絡網の整備など、万一の場合地域の人々の協力が得られる体制づくりも望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーや栄養バランスについては管理栄養士によるチェックがなされている。また、1日の食事、水分の摂取量もおおよそ把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事と団欒に使われる居間、和室はおしゃべりや面会に使われている。居間は広いベランダ、庭に続き開放的に戸外でも過ごせるよう工夫されている。居間や廊下には利用者の作品や写真が沢山並び、適度な雑駁間とともに、居心地のいい家庭的な共有空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔である。利用者の使いなれた家具や調度品などが持ち込まれている。また、思い思いの飾りつけもなされ、利用者にとって居心地良いスペースになっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	独自の地域密着型としての理念をつくり、実現に向け取り組んでいる		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	統一した介護するため日々理念を唱和している 介護に迷ったら理念を思い出すよう指導している		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の会長、民生委員、家族会会長、職員の参加にて推進会議を実施している		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域内の職員もおおり又お便り（月間）などで呼びかけている。 ご近所の散歩にも出向いている。イベント、行事の有る時はポスターなどでお知らせしている	○	
---	--	---	---	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地区内の清掃作業、とんど、小学校の運動会、保育園訪問など実施している。又ホームのイベントにも参加していただけるように案内している		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。			地域密着した相談窓口として取り組んでいきたい、認知症の学習を地域を対象に今年中にもちたい 当ホームドバイザーもいる事お知らせする
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員にて月一回のミーティングで報告をし、対策を話し合っている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		○	運営会議は実施しているが職員、その他に報告がなされてなかった 報告をしようアイデアが聞かれるよう努めたい
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		○	これから機会を利用していきたい 運営推進会議では二ヶ月一度話し合っているが、その他にも行き来する機会をふやして行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。		○	これからの課題（高齢化社会）に向けて職員と共に勉強していきたいと思う
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	学習会に参加し入居者様の尊厳を守り言葉使いにも注意に努めている		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様と面談を重ねホーム内の見学説明をする。パンフレット、重要事項のしおりを見ていただき不安、質問を聞き入居の運びとなる		契約、解除なども十分な話し合いの上納得していただいている (本人の面接もある)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	入居者の不満、苦情を聞き受容、共有する事も介護の一貫であること、職員にも指導している意見箱の用意もしている その都度対応している		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者様の近況報告、検査結果を主治医のコメントをつけて毎月～三ヶ月一回程度にて送っている。小使帳を利用し二ヶ月に一回コピーにて送る。ホームを訪問された時確認サインをいただいている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内へご意見箱用意してある 外部評価のアンケートの結果全体ミーティングにかけ職員全員で話し合いをした		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	一ヶ月一回の全体ミーティングを実施意見に対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	問題変化が生じた時は即カンファレンスに努めている。 散歩など希望により付き添う、それ以外の入居者様の必要なケアを中心に職員の役割分担をし調整している 朝、個人的に散歩されたい方にも担当スタッフをつける 受診の要望にも調整しお応えしている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	対応策はこれと言ってないが幸い職員の移動、 新職員に対して入居者様より拒絶反応はない 運営者は異動は離職は最小限にとどめる努力をしている 申し送り、情報を細やかにし入居者様のダメージを最小限にするよう努力している		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修後の報告はミーティング時に行っている 管理者、職員教育マニュアルがありそれにのっとり教育を行っている。施設内での勉強会、外部研修いも積極的に参加をすすめている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他市のグループホームとの交流をもつ研修仲間地域の職員同志の情報ネットワークにて実施している		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	重度化により入居者様の関わりを多くする為にも給食（夕食）も取り入れている。 、ホームにとどまる事なく職員同志の食事も実施している		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員の勤務が平等になるよう務めている。日勤が続かないよう休日も程よく組み込んでいる 個人の働きについて評価するよう努め、仕事上のストレスに関しても話し合いの機会を持っている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	不安な事に対してすぐに話を聞き対応している お話を聞きコミュニケーション、スキンシップに務めている、受容、共有している		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	電話にて身内、娘さん、ご家族より聞く機会ともに聞き取り用紙を活用。初期は出来るだけ頻回に訪問して頂きさらに色々と情報収集ホームへの理解も深めていただく		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	常に入居待ちの方が複数おられすぐに入居していただけない事が多いためお話を聞き、他のサービスを紹介することが多々ある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	そのケースごと違うがショートステイからという形からゆっくり無理せず慣れていただいたケースが多い		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	教えてもらう、学ぶ、手伝っていただくという姿勢を忘れない、昔話をしながら出来る事はしていただき、掃除、料理もの作りも先輩として敬意を忘れず一緒に行っている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族も行事、イベントに声かけし参加頂いている、家族会の提案によりご家族、入居者職員一緒になりホーム周辺の清掃をし野外で食事をしたり、特にターミナルケアでは頻回にご家族とミーティングしご本人、ご家族の意向に少しでも添った最期に近づくよう努力している		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	その人の歴史を知り情報も多く取り入れる事が大切という理念に基づきお話もよく聞いている面会にこられたご家族とに入居者様についてお話をお聞きしご家族も色々な思いを打ち明けてくださる事も多々ある、ご家族の精神的負担の軽減にも努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔、暮らしていた風景の場所思い出のある場所などの外出を心がけている。 ご家族様ご姉妹にも泊まれるよう支援、入浴、食事も一緒に同じテーブルでされている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	年数も経過しており。皆、家族のような関係になられている ADLの低下、意識レベルの低下がある方もベット上の生活でなく、出来るだけ他の入居者様と同じように団欒の時間を過ごせるようにしている。他の入居者様も気遣いして下さいます。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も電話などで相談がある場合があり相談を受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	三ヶ月に一回の見直し身体の状態散歩などのスタイルに添うよう、その人らしい生活が出来るよう援助している 仕事をしたい方には仕事を一緒にする機会を多くしたり個人的に散歩をしたい方、買い物に行きたい方、自宅に帰りたい方など要望を中心に援助している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報を元に自室も自宅のように思い出の品を飾る、散歩、犬の散歩、畑の仕事など出来るよう務めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各自のライフシートに記録し、休日のスタッフにも分かるよう申し送り簿にて情報を共有出来るよう徹底している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	三ヶ月に一回の見直しにてよりよい介護ケアにご家族のご要望ご意見を取り入れ更新している 状態の変化、問題が生じれば受け持ちスタッフを中心にケア計画の見直しをしておりスタッフ一人ひとりの意見が多く引き出されている		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体が状況が変化され時など入居者様の快適な生活が送れるようプラン見直しの更新をしている		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ライフシートに詳しく記録センター方式にて日々の状況が分かりやすく記録している		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	里帰り、実家、外出、受診、ディサービスの行事参加		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	保育所（レクリエーション）小学校（運動会）と交流がある。入居者様もとても楽しみにされている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在、当自治体では他の介護サービスはグループホーム内で利用は出来ないことになっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括センターと関わりは地域密着推会議のみとなっている	○	地域包括センターと協議を検討していきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	主治医週一回往診があり変化の把握に努めていた。異常があれば他科の受診をしたり往診をお願いしている。 ご家族様の受診依頼があり援助している		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	小西医院の法人院長が認知症専門医であるため必要時、指導、援助を受けている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	小西医院の併設もあり、異常が見られたときは即報告し指示を受けている。 当ホーム内看護師2名勤務しているため日常の健康管理、医療の支援は充分出来ている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	職員が見舞いに出向き本人の好み、習慣、楽しみなど情報提供に努めている。本人にも馴染みの物、知っている顔がいて安心していただき会話に務めている。入院時必ずサマリーにて情報提供している。ADL や認知症の悪化の危険があるため主治医を通して早期の退院を促してもらい実現できている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ご家族との面談を重ね、身内ご兄妹などにも泊まっていたりよう提案している。 ご家族、職員共々により看取りが出来るよう主治医の経過報告をうけ、連絡を密にしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	実際にご家族にも納得していただける看取りを2名経験している。グループホームで受ける医療には限度があるが主治医、家族スタッフの十分な話し合いを繰り返し、本人、家族、介護者にとってよい終末期になるよう努め実現できている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	十分に話し合いを持った結果退去となったケースがある退去後の生活について、家庭内のケアについても家族とよく話し合いケアマネに情報を提供した。		
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報に注意しトイレ特に排泄に関する事などは注意し周囲に分からないようにするなど他に聞かれないよう心がけている。 又記録などは鍵付き扉のある保管場所に収納している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	、スタッフ本位にならないう、ご本人の意思を必ず確認するようにしている。 カンファレンスにて意見を出し合い支援している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ほとんどの方が長く生活をされているので生活スタイルは決まっている、その方のペース、スタイルに合わせて援助している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	日々の身だしなみに留意し、本人の好みを大切に、できるだけ自分で選んでいただいている 女性は化粧も行事、外出時に楽しんでもらっている。 美容院の利用援助もしている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューは出来るだけ入居者様と共に決定している。準備、調理などお得意な入居者さんと共にやっている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	冷たいものを好む方と、コーヒーがお好きな方おやつの内容なども好みに合わせて提供している。コップもその方にあった物を使用、男性には酒も提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ベット上やオムツは極力避けトイレに誘導しスチームタオルにて清拭などウオシュレットの使用も介助している。安易に紙オムツに頼らず布パンツ、サポートパンツなど使用も試みている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者様の体力もあり、現在週三回の入浴となっており満足していただいている。	○	入浴時間は入居者様も高齢化し、ゆっくりと時間をとる必要がある為、午後の夕方になっている一人一人のご希望どおりとまではいっていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝は人気の在るところが安心される方はソファで休んでいただく、夜間も眠れない方はスタッフが寄り添い安心して眠っていただけるまでお茶を飲んだり夜食を共にする方もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	調理、洗濯干し、犬の散歩お世話昔から農業されてる方個々の仕事していただいている。生活歴にあった生活をしていただいている。月々に行事を決め季節に合った行事考えお出かけ催しをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に出かけた時は御自分で選び支払いも出来るよう見守りしている。 ご自分で管理されている方もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個人的に散歩にも同行している天気の良い日は出来るだけ散歩外出している。全員が楽しめる場所である事、生活されてきた環境場所思い出のある懐かしいところ選んでいる		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	花見の時期は花のある場所へコーヒーのお好きの方のために喫茶店、りんご狩に山に出かけた り年に一度温泉旅行にも出かけている		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話をされる援助はその都度行っている。	○	入居生活が長くなりご家族との面会が主になり、電話や手紙でのコミュニケーションが少なくなりがちなので、今後再度見直して試みていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族はもちろん知り合い方がたずねてこられた時なども居室にお茶をお持ちしお話をさせていただいている。一緒にレクレーションにも参加していただき楽しんでいただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束委員会を設置をしており今のところまったくない。職員にも周知徹底している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵掛けしておらず職員も施錠は拘束につながると理解しており入居者様が出ようとされた時は見守りをしたり行動を一緒にする		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	当日の担当があり常時所在を確認されている。申し送りの時又会議の時なども入居者さんも一緒に行き安全に注意している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室にハサミ針など薬品洗剤があってもよい方にはそのままにしており取り扱いが危険な方はお預かりしている〔エアコンのコントローラなども〕		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットが起きた時すぐに第一対応をカンファレンスで検討する。 後日再度カンファレンスにかけて見直しをしている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	マニュアルにて勉強している 職員の移動もあり訓練できていない部分あり	○	早期実施 新職員はマニュアルにて説明することにする

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防法にもより年一回入居者様の参加をいただき訓練を実施している		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	少しの異常、リスクが考えられる時は即ご家族様に連絡をして詳しく説明話し合いをしている 異変については、出来るだけ早急にミーティングを行い対応を決定し、申し送りでスタッフに周知徹底している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化に気づけばリーダーにより必要時主治医へ報告し指示を受けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員の入れ替えもあり早急の勉強会が必要である	○	勉強会は6月初旬に予定をしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給、センナ茶、牛乳を飲んでいただいたり運動不足にならないように心がけている 腹部のホットパックも実施している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	義歯のポリデント、強酸性水消毒、デンタルリンス使用で口腔の清潔、良好な状態を保てるよう自歯、管理メンテナンス必要時早めに受診の援助をするなど行っている		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	普通食の方は勿論、特別食の方は特に栄養を考えミキサー、トロミ食に高カロリーゼリーを作り提供したり、一日の栄養、水分を確保している管理栄養士によるチェックしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している、発症しないように感染に注意、感染しやすいトイレ、手すりなどの消毒を実施している、一週間に一度の往診採血の実施にて早期発見に努めている 消毒はウイルスにも効果的な強酸性水を使用。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は安全と定評心得ている生協より調達している。器具、ふきん、まな板などは夕食後強酸性水にて除菌を実施している、食器類はその都除菌をしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	門よりテラス、スロープから入ってきやすくなっておりテーブル、イスを置いて話しやすくし工夫している。ご近所の方々はスロープから入ってきてくださる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花、壁画などにより季節感を出している日本の文化、習慣など取り入れ四季を感じていただいております		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各自どの場所がくつろげる所であるか職員も認識しており自由に一人になれるよう努めている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様が使い慣れた思い出のある物を居室に用意していただく、いつもご自分の部屋だと安心していただけるようご家族さんにも相談している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気清浄機の設置、換気は朝の掃除その他適宜行っている。温度調整はその方によりエアコンでのコントロールやオイルヒーターを使用し調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを主に設置、歩行器を使われる方の居室ベット周囲や出入り口の整備、自由に安全に動けるようにその方の動きに応じてベットの位置、その他家具、福祉用具の位置を変えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	それまでの生活の延長となるように自宅と同じ日用品の置き場所を統一、トイレや洗濯室など（自室も）表示や目印をしたり居室のタンス、クローゼットもその方に合ったようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダも広く取り、日光浴、犬と遊ぶスペースもあり、ホームの周リ歩行される休憩出来るよう、間隔的に椅子の用意あり庭も広く、野菜花作りも楽しんでいる		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② ○ 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ○ 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② ○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ○ ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② ○ 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② ○ 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ○ ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ○ ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんど出来ていない

※ は、外部評価との共通項目